

くりはらの大豆だより

宮城県栗原農業改良普及センター

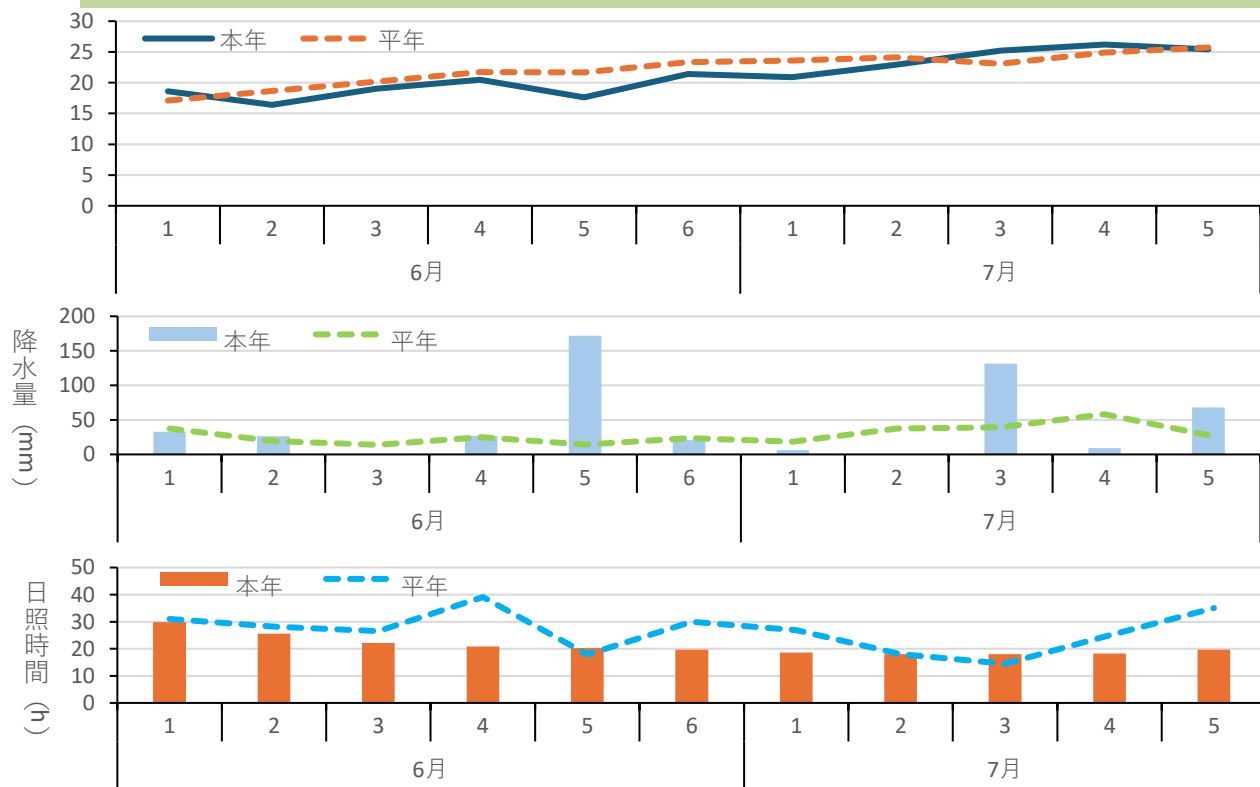
第2号 令和8年8月10日発行

TEL 0228-22-9404

大豆栽培の今後の管理のポイント

■ 湿害対策 ■ 高温・干害対策 ■ 適期の病害虫防除

気象経過（築館アメダス）



生育状況

◎生育調査ほ（7月24日調査）

- ・すずみのりは前年と比べ、主茎長が長く、主茎節数は多く、分枝数はやや少なかった。
また、開花期は6日遅れの8月2日となっています。
- ・ミヤギシロメの開花期は現時点で8月上旬と見込まれています。

表1 生育調査結果（7月24日調査）

品種 地域		播種期	主茎長	主茎節数	分枝数	開花期
すずみのり 志波姫 南八樟	本年値 前年差	6/14 3日遅れ	36.5cm +7.7cm	9.9節/本 +1.3節/本	0.7節/本 -1.0節/本	8月2日 6日遅れ
ミヤギシロメ 若柳 下畑岡	本年値 前年差	6/11 —	32.1cm —	8.3節/本 —	0.8節/本 —	未 —

※ミヤギシロメは今年からは場が変わったため、前年の数値はありません。

今後の管理

湿害/高温・干害対策

<高温・干害対策> - 開花期以降に晴天が10日間以上続きそうな場合に実施 -

開花期以降は、それ以前の3～4倍の生育量となり、多量の水分を必要とします。
高温乾燥条件下では、落花や落莢、着莢率の低下、子実肥大の低下が生じて減収に繋がります。また、「莢ずれ」が発生しやすくなり、外観品質が低下します。

- ・ 暗きよの水閘を閉じて土壌水分保持に努めてください。
- ・ 可能な場合は、畝間の土壌表面に水がしみ出す程度、ほ場にかん水をしましょう。

◎各生育ステージの乾燥による影響◎

- ・ 花芽分化～開花始期：花数の減少、落花・落莢の増加
- ・ 開花終期 ：落莢・不稔莢の増加
- ・ 開花終期以降 ：百粒重の低下、莢ずれの増加

<湿害対策> - 降雨が続く場合に実施 -

子実が肥大する生育後期の土壌過湿が根の呼吸阻害や根粒菌の活性低下を引き起こすことで窒素供給が抑制されて減収につながります。

- ・ 暗きよを開放して、地下排水を促しましょう。
- ・ 大雨の後や長雨のときは、排水溝が詰まっていないか、また明きよに水が溜まっていないかを確認し、必要に応じて修繕しましょう。

■農作業中の熱中症に注意しましょう！

✓高温時の作業は避けましょう。

- ・ 農作業中の熱中症による死亡者数を年代別に見ると70代以上が約9割を占めています。高齢者の方は特に注意が必要となります。

✓単独作業は避けましょう。

- ・ なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

✓20分おきに休憩＆水分補給を行いましょう。

- ・ 涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げましょう。のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。

✓熱中症対策アイテムを活用しましょう。

- ・ 帽子や吸湿速乾性の衣服を着用したり、空調服や送風機、ウェアラブル端末などを活用し、熱中症リスク回避をしましょう。

農薬使用の際は「使用前、周囲よく見てラベル見て」農薬危害防止運動実施中！

適期の病害虫防除

処理時期	対象病害虫	防除方法・時期の目安など
7月下旬 ～ 8月上旬 (発生に応じて 適時防除)	ウコンノメイガ	・食害が目立つのは8月中旬以降であるが、この時期は老幼齢であり、薬剤防除効果が低い。 ・幼虫による葉巻数（写真1）が要防除水準（大豆1本あたりの葉巻数が1つ以上の場合）を上回っている場合には、7月下旬から8月上旬にかけて薬剤防除を行う。
8月上旬 ～ 8月下旬 (発生に応じて 適時防除)	オオタバコガ ツメクサガ ハスモンヨトウ	【オオタバコガ/ ツメクサガ】 ・食害が早く、中齢幼虫以上（写真2）になると葉及び莢を食害し、被害が大きくなるため、早期発見と早期防除が重要となる。 ・若齢幼虫は未展開葉を食害するため、未展開葉が食害されていた場合は適時防除を行う。 【ハスモンヨトウ】 ・若齢幼虫期の防除が効果的であり、白変葉（写真3）が増加したところの薬剤防除が効果が高い。
8月下旬 ～ 9月上旬	紫斑病 マメシンクイガ ダイズサヤタマバエ フタスジヒメハムシ カメムシ類 サヤムシガ類 アブラムシ類	【紫斑病】 ・莢の発病は開花30日後以降に急増するので、この時期（若莢期）に重点を置いて適時防除を行う。 【マメシンクイガ、ダイズサヤタマバエ、フタスジヒメハムシ（写真4）、カメムシ類】 ・これらは8月下旬に1回目、その7～10日後に2回目の散布を行うことで同時に防除できる。 【サヤムシガ類】 ・莢や茎葉を糸でつづり合わせて食害する（写真5）。発生した場合は、8月中下旬（若莢期）に防除を行う。 【ジャガイモヒゲナガアブラムシ（写真6）】 ・生育後期（8月下旬～9月上旬）に発生がピークに達し、ウイルスの媒介や早期落葉による収量・品質の低下要因となる。 ・発見後に適時防除を行う。

ウコンノメイガによる葉巻症状



写真1

オオタバコガ(幼虫)による食害



写真2

ハスモンヨトウによる白変葉



写真3

フタスジヒメハムシ(成虫)食害



写真4

ダイズサヤムシガによる食害



写真5

ジャガイモヒゲナガアブラムシ



写真6